

はなぶさ保育園対話型鑑賞実践 報告レポート

渡川 智子

京都大学大学院教育学研究科修士課程

アート・コミュニケーション研究センター リサーチ・アシスタント



<実践概要>

日時：2013年3月11日（月）

場所：京都大学総合博物館

対象：はなぶさ保育園 園児約50名

はじめに

2013年3月11日（月）、元気いっぱいの園児約50名（年長さん）が、休館日の博物館にやってきました。京都大学総合博物館の前に大きなバスが止まり、中から元気いっぱいの園児たちがぞろぞろと降りてくる。皆とてもわくわくした笑顔で、「おはようございます！」と元気いっぱいに挨拶してくれた。園児達はまず博物館のエントランスに集まり、大野館長（京都大学総合

博物館館長)から博物館の説明を聞いたのち、誰もお客さんのいない広い博物館をグループごとに自由にみてまわった。京都大学総合博物館には、文化史・自然史・技術史の学術標本資料資料が収蔵・展示されている。さらに現在は企画展示室にて、「ウフィツィ・バーチャル・ミュージアム」展が開催されている。(2013年3月24日まで)今回アート・コミュニケーション研究センターでは、博物館に来館した約50名の園児達に向けて、「ウフィツィ・バーチャル・ミュージアム」展の作品を用いた対話型鑑賞を行った。このレポートでは、園児達との鑑賞の様子を簡単に振り返っていきたい。

園児と一緒に対話型鑑賞

作品鑑賞は、園児たちの集中力や疲労などを考慮した結果、入れ替わり制で1グループ(約13名×4グループ)ずつ行い、どのグループもポッティチェリ作の『春(プリマヴェーラ)』を鑑賞することに決まった。(その間、他のグループは常設展示を鑑賞)『春』を選んだのは、「作品が大きいので大人数での鑑賞が容易、見る要素が多い、子供が認識しやすいもの、特に人物が多く描かれている、今の季節にちょうど良い」といった理由からだ。4グループに向けた鑑賞を終えてみて、この作品選定は成功だったと考えている。

ではつづいて、鑑賞の様子を振り返っていきたい。引率の先生と一緒にウフィツィ展の会場にやってきた子どもたちは、「今から何をやるんだろう?」と期待の表情を浮かべながら大きな絵の前に座った。はじめに私たちスタッフの自己紹介を行い、「博物館に来たことがある人?」「ここに来るまで何見た?」といった質問を投げかけ、簡単なアイスブレイクを行う。つづいて、金澤咲さん(兵庫県立美術館ミュージアムティーチャー、ASP学科2011年度卒業生)が博物館での約束について、「どんな約束があるだろう?」「それはなぜだろう?」ということらを皆と一緒に考えながら共有していく。その後、板井さん(アート・コミュニケーション研究センター)から、「みて、考えて、聞いて、話す」という対話型鑑賞のルールを園児に簡単に伝え、「今日は皆が先生だから、発見したことをいっぱい教えてほしい」といった導入を踏まえ、鑑賞がスタートした。

最初は少し緊張気味だった子どもたちだが、次第に緊張もほぐれ、それぞれ気付いたこと、思ったことを元気に発言してくれた。「お猿さんがいる」「葉っぱを食べてる人がいる」「みんな裸ん坊だ」「なんで靴履いてないんだろう?」など、本当に様々な疑問や発見が飛び交い、思わず先生も「なるほど～」と関心する場面も。「どこからそう思ったの?」とナビゲーターが聞き返すと、「だってね」と、絵をもう一度みて、しっかりと理由を語ってくれた。子どもたちの多くは、見えたこと、自分が発見したことを「言いたい」「聞いてほしい」という気持ちから元気に手を挙げていたように思えたが、なかには友達の意見を聞いて、「君はこう言っていたけど」というように、友達の意見に関連させて発言をしている子もいた。

今回ナビゲーターは、VTSの問い「何が起きているだろう?」「どこからそう思ったの?」「他に発見はありますか?」を基本としながら、場面ごとに別の質問をしたり、発言にインタラクティブに関わりながら、彼らの関心に寄り添い、皆で鑑賞体験を進めていった。また、子どもたちの発言の内容は変えずに、別の言葉でより明確に言い換え、思考や認識を言葉にすることを丁寧に行い、他の子どもたちはそれを“うんうん”と、うなずきながら聞いていた。また鑑賞の終盤になると、「ハイ!ハイ!」と全員が元気に挙手する様子が見られ、絵をじっくりみて、そして友達の意見を聞いていくことで、新たな発見や気づきが園児たちのなかで次々に起こっていたようだった。

おわりに

『春』の鑑賞を終えた後は、展示室内にあるタッチパネルを操作するなど、ウフィツイ展の会場を自由にみてもらった。皆多いにはしゃぎながら、普段あまり接することがないだろう絵画作品や最新のテクノロジー、大きな展示空間を思い思い楽しんでいた。全ての展示を見終わって、再びエントランスに全員が集まると、来館したときのワクワクした表情とは少し変わり、充実感のある柔らかい表情になっていた。子どもたちそれぞれの博物館体験に思いを寄せながら、「ばいばーい!」「ありがとう!」と笑顔で博物館をあとにする園児たちを元気に見送る。今回博物館で生まれた様々な出会いと対話が、子どもたちのこれからの毎日に、色を帯びながら繋がっていくことを願う。